

9/15 祝

海自、米艦に洋上給油

安保法新任務 政府公表せず

海上自衛隊の補給艦が今年4月以降、日本海で北朝鮮の弾道ミサイル防衛(BMD)に当たる米イージス艦に洋上給油を実施していることが14日、政府関係者への取材で分かつ

た。安全保障関連法の施行で自衛隊から米軍への物品提供や輸送任務の対象が拡大。今年4月に改定日米物品役務相互提供協定(ACSA)が発効し、給油が可能になった。安保

法の新任務が明らかになるのは、海自が5月に実施した「米艦防護」に続きの例目。

北朝鮮に対する抑止策として、平時から自衛隊と米軍の連携をより強化する狙いがある。

一方、政府は米軍の意向を踏まえ、安保法の新任務の実施を公表しておらず、国民が実情を把握できないまま日米の一体化が加速度的に進んでいる。

河野克俊統合幕僚長は14日の記者会見で、改定日米ACSAに基づく物品供与は認めながら「米国の行動に関わる」として、洋上給油をしたかどうかも明かさなかった。

政府関係者によると、北朝鮮が弾道ミサイル発射を繰り返し、海自や在日米軍のイージス艦は24時間態勢で警戒監視に当たっている。このため米側の要請に基づき海自が洋上で給油する「ギャップ」の隙のないBMD対応ができるようになるという。

学習院大法科大学院の青井未帆教授(憲法学)は「国民の知らないところで、後戻りができないくらい米軍との深いつながりができている。軍事的な緊張が強調される中、情報を持たない国民が正しい判断ができるのか。自衛隊員だけでなく国民のリスクも増してしまっている」と訴えた。